2026 年 11 月 13 日

第 15 回(2026 年度）核燃料部会賞（奨励賞）の推薦募集について

日本原子力学会核燃料部会では、部会の将来を担う若手研究者の育成奨励とレベルアップを図るため、核燃料部会奨励賞の制度を設けております。

つきましては、核燃料部会奨励賞の受賞候補者の推薦を下記の通り募集いたしますので、適当と考えられる受賞候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 部会賞の種類

推薦を募集する部会賞の種類は、核燃料部会奨励賞とする。

2. 応募資格

以下の条件を全て満たすこと。

(1) 将来の活躍が期待される若手研究者（2026 年 4 月 1 日時点において 42 歳以下）であること。

(2) 受賞候補者は表彰式（2027 年春の年会を予定）の時点において核燃料部会員であること。（応募時点においては核燃料部会員でなくてもよい）

(3) 推薦者は核燃料部会員であること。

3. 受賞対象

原子力平和利用を目的とした核燃料工学に関する学術および技術上の優秀な成果、具体的には、核燃料工学に関する国際会議論文集や学術誌、技術誌に掲載、あるいは原子力学会の春の年会・秋の大会で口頭発表された成果を対象とする。参考に、これまでの受賞者と研究業績を添付に示す。

4. 本賞と副賞

受賞者には表彰状と副賞（表彰楯）を贈呈する。

5. 応募方法

核燃料部会員は受賞候補者を推薦する場合（自薦も可)、以下の項目を記載した推薦書 1 通および推薦内容にもっとも関連する参考資料（1〜3 編程度）を、部会賞選考小委員会幹事へ送付すること（電子メールでの送付可)。なお、部会賞選考小委員会委員は推薦者になることはできない。

・受賞候補者の氏名・所属
・推薦者の氏名・所属
・対象とする成果若しくは貢献の内容
・推薦理由

6. 選考

核燃料部会運営小委員会のもとに部会賞選考小委員会を設置し、選考を行う。

7. 応募期限

2027 年 1 月 8 日(金) 必着

8. 選考結果の通知

選考結果は、2027 年 3 月中旬までに電子メールで通知する。

*審査状況によって通知が遅延する可能性があることをご承知おきください。

9. 応募・問合せ先

核燃料部会 部会賞選考小委員会 幹事　森本恭一

〒979-0513　福島県双葉郡楢葉町大字山田岡仲丸 1-22

日本原子力研究開発機構 楢葉遠隔技術開発センター 技術実装推進課

Tel: 0240-26-1040（代表）

E-mail: morimoto.kyoichi@jaea.go.jp

以上

添付

受賞者と研究業績

回次 (年度)	氏名	所属	研究業績
第 1 回 (2012)	坂本 寛	日本核燃料開発	燃料被覆管材料の水素吸収機構に関する研究
第 2 回 (2013)	高野 公秀	日本原子力研究開発機構	マイナーアクチノイド含有燃料の調製及び基礎特性に関する研究
第 3 回 (2014)	黒崎 健	大阪大学	ジルコニウム水素化物及びハフニウム水素化物の作製と基礎物性評価
第 4 回 (2015)	牟田 浩明	大阪大学	トリウム酸化物燃料の作製と物性評価
	篠原 靖周	ニュークリア・デベロップメント	水素イオン照射下におけるジルカロイ中の水素化物成長の TEM 内その場観察
	三輪 周平	日本原子力研究開発機構	アメリシウム含有イナートマトリックス燃料の焼結挙動の解明
第 5 回 (2016)	佐々木 孔英	日本原子力研究開発機構	高速炉用燃料被覆管材と Cs-Te 化合物の化学的相互作用に関する研究
	楊 会龍	東京大学大学院	原子燃料被覆管用 Zr-Nb-Mo 合金の開発に関する研究
第 6 回 (2017)	応募無し		
第 7 回 (2018)	成川 隆文	日本原子力研究開発機構	ジルカロイ－4 被覆管の冷却材喪失事故時急冷破断限界に関する不確かさ定量化及び低減手法の開発
第 8 回 (2019)	宇田川 豊	日本原子力研究開発機構	軽水炉燃料挙動解析技術の高度化に関する研究
第 9 回 (2020)	応募無し		
第 10 回 (2021)	応募無し		
第 11 回 (2022)	Li Bo	東京大学大学院	Cr 被覆型 Zry4 事故耐性燃料の合成技術開発 並びに界面安定性に関する研究
第 12 回 (2023)	応募無し		
第 13 回 (2024)	三原 武	日本原子力研究開発機構	高燃焼度添加物入り燃料の反応度事故時破損挙動に関する研究
	Rizaal Muhammad	日本原子力研究開発機構	福島第一原子力発電所 2 号機格納容器内の堆積物におけるセシウムの化学吸着メカニズムの解明
第 14 回 (2025)	応募無し		